

尾張旭市の特徴とまちづくりの課題について

1. 住む場について

社会潮流

- 人口減少、高齢化の進展
 - ➡ 将来の人口動向を見据えた都市づくりが必要です。
- コンパクト・プラス・ネットワーク
 - ➡ 居住、都市機能を集約する都市のコンパクト化が必要です。
- ニューノーマルへの対応
 - ➡ 人々のライフスタイルに応じた多様な暮らし方の選択肢を提供していく必要があります。

本市の特徴（◎強み ●弱み）

課 題

基礎的調査

- ◎名古屋（栄）に直結する名鉄瀬戸線沿線をはじめ、広い地域で土地区画整理事業により整備された住宅地が形成されています。
- ◎矢田川南側についても路線バスにより名古屋都心部へのアクセスが便利な住宅地が形成されています。

市民アンケート

- ◎住まいの地域の「魅力」や「愛着」、「誇り」を感じることにについて、「暮らしやすさ」に分類される回答が最も多い。

- 良好な住環境の維持・充実が必要です。

基礎的調査

- ◎土地区画整理事業等により住宅地が供給されてきたことから、子育て世代および子ども世代の転入が顕著な状況にあります。
- 近年の人口は横ばいに推移し、世帯数の増加率も鈍化傾向にあります。人口は、今後緩やかに減少していくことが見込まれます。

市民アンケート

- ◎今後も尾張旭市に住みたい人の割合が 73.8%、いずれ市外に転出したい人の割合が 4.3%となっています。

- 働きながら子どもを育てやすい住環境の維持・充実が必要です。
- ライフスタイルに応じた多様な暮らし方が選択できる住環境が必要です。

基礎的調査

- 高齢化率は県平均よりも高く、市街地整備の完了から時間が経過した地区や古くからある市街地では高齢者数の増加傾向が顕著であり、今後さらに高齢化が進行することで、空き家、空き地が増加し、都市のスポンジ化が進むことが懸念されます。

- 空き家・空き地の増加抑制や利活用が必要です。
- 高齢化が進む地域では、高齢者の暮らしやすさの確保が必要です。

基礎的調査

- ◎市街化区域人口が市全体の 93.4%を占め、人口密度が県内都市の中でも高く、コンパクトな市街地が形成されています。
- ◎特に鉄道駅周辺や矢田川南側の市街地で人口集積が高い状況にあります。

- 現在のコンパクトな市街地規模の維持が必要です。
- 生活サービスやコミュニティ、公共交通を持続的に確保するため、市街化区域人口密度の維持が必要です。

2. 生活利便性について

社会潮流

- ニューノーマルへの対応
 - ➡ 既存の道路・公園等の都市施設を最大限活用し、市民のニーズに応えていく必要があります。
- 居心地が良く歩きたくなるまちなか
 - ➡ 都市空間の魅力を向上させ、豊かで成熟した生活を実現する都市空間への再生が必要です。

本市の特徴（◎強み ●弱み）

課 題

基礎的調査

- ◎商業施設、医療施設、福祉、子育てといった日常生活に密接に関連する生活利便施設の徒歩圏が概ね市街地をカバーしており、日常生活に便利な市街地が形成されています。

市民アンケート

- ◎これまでのまちづくりの評価では、「日常的な買い物のしやすさ」の満足度の平均が最も高く、重要度の平均は 2 番目に高い。

- 日常生活に密接に関連する生活利便施設の維持・充実が必要です。
- 生活利便施設へのアクセスのしやすさが必要です。

基礎的調査

- ◎都市計画道路の幹線道路の整備率は約 70%と着実に整備が進んでいます。
- ◎都市計画道路名古屋瀬戸線は拡幅整備を行っています。
- 土地区画整理事業等の面整備地区では、地区外からの通過交通等により、交通量の増加や走行速度の速い車両の流入が見られます。
- 既成市街地では、不整形な道路や道路網、道路幅員が狭い等、安全面、防災面での不安が残る地区は存在します。

- 生活道路への通過交通の流入や速度抑制が必要です。
- 生活道路の適切な維持・更新に加え、狭あい道路の整備改善が必要です。

基礎的調査

- 土地区画整理事業に伴って都市公園が整備されてきたことから、施設の老朽化が進んでいます。
- 都市公園は、合計 67 箇所で開催されていますが、既成市街地の一部に、身近な公園が整備されていない地域が見られます。

市民アンケート

- ◎これまでのまちづくりの評価では、「住まいの周辺の公園」の満足度の平均が高い。

- 老朽化が進む公園については、市民のニーズや使い方を踏まえ、適切な維持・更新が必要です。
- 身近な公園が整備されていない地域の解消が必要です。

基礎的調査

- ◎公共下水道は、霞ヶ丘町の一部を除き、おおむね整備が進んでいます。
- 土地区画整理事業に伴って下水道施設が整備されてきたことから、今後は施設の老朽化が進むことが想定されます。

- 下水道施設の継続的な整備と老朽化する既存施設の適切な維持・更新が必要です。

基礎的調査

- ◎市内で運行する名鉄瀬戸線や、名鉄バス、名古屋市営バス、尾張旭市営バス「あさぴー号」等の公共交通サービス圏は、市街地のほぼ全域をカバーしています。

市民アンケート

- ・おおむね 10～20 年後の地域の将来について、「誰もが移動しやすいまち」の回答数が最も多い。

- 市民の移動を支える公共交通サービスの維持・充実が必要です。

3. 安全安心について

社会潮流

- 大規模自然災害に対する意識の高まり
 - ➔ ハード・ソフトの両面から防災・減災対策に取り組む必要があります。
- 水災害リスクを踏まえた防災まちづくり
 - ➔ ハザード情報を活用した水災害リスクの評価を踏まえ、防災まちづくりを進める必要があります。

本市の特徴（◎強み ●弱み）

基礎的調査

- ◎南海トラフ地震の想定では、県内の 8 割以上の自治体が最大震度 6 強～7 であるなか、市南部の一部に本市の最大震度 6 弱の地域があるものの、多くの地域は概ね 5 強程度となっています。
- ◎南海トラフ地震による津波の想定はありません。
- 新耐震設計基準導入前の家屋が比較的多く分布するのは、三郷駅から尾張旭駅周辺にかけての古くから形成された既成市街地や、矢田川南側の市街地にみられます。

基礎的調査

- 矢田川沿いの低地部では、一部の区域で最大浸水深が 1.0～3.0m に達すると想定される地区があります。
- ◎矢田川南部の一部の地域で内水氾濫が想定されていますが、市内のほとんどの地域では内水氾濫の危険性は低くなっています。
- 瀬戸街道や主要な幹線道路の一部に浸水・冠水する区域があります。

課 題

- 南海トラフ地震をはじめとする地震発生時の被害を軽減するために、公共施設や民間建築物の耐震化や機能更新が必要です。
- 住宅密度の高い既成市街地では、大規模火災等の災害時における消防や救援のための活動空間の確保が必要です。

- 想定される矢田川からの洪水に対する防災・減災対策が必要です。
- 想定される内水氾濫のリスクを低減する排水対策が必要です。

4. みどり・自然環境について

社会潮流

- 環境問題の深刻化
 - ➔ CO2 排出量の削減等、環境負荷の低減に資する都市づくりが必要です。
- カーボンニュートラル
 - ➔ 「2050 年カーボンニュートラル」（温室効果ガスの排出ゼロ）に向けた取り組みが必要です。
- 30by30 による健全な生態系の保全・再生
 - ➔ 生物多様性の損失を食い止め、回復させる取り組みが必要です。

本市の特徴（◎強み ●弱み）

基礎的調査

- ◎北部の丘陵地帯にはまとまった緑地帯が広がり、南部の低地には、まとまった農地が広がるとともに、矢田川が東西に流れており、豊かな自然環境を有しています。
 - 本市の緑被率は、宅地開発に伴い主に市街化区域で減少しています。
- ##### 市民アンケート
- ◎これまでのまちづくりの評価では、「休日に家族で遊べる大規模な公園や緑地」や「道路空間や公共施設の緑化」の満足度が高い。
 - ◎地域の魅力や愛着、誇りに感じることで、「森林公園」や「城山公園」、「豊かな自然や農地、ため池などの水辺環境」等のみどりや自然環境に関する回答が多い。

基礎的調査

- ◎矢田川の河川敷には散歩道が整備され、市民が水と親しめる空間が形成されています。
 - ◎北部の丘陵地帯には森林公園が整備され、市内外から多くの利用者が訪れています。
- ##### 市民アンケート
- ・北部丘陵地のあり方は「やすらぎや憩いの場として活用」が 30.3%と最も高く、次いで「現状の自然環境を保全」が 26.5%となっています。

課 題

- まとまりのある緑地を今後も保全する必要があります。
- 民有地の緑化の促進や街路樹の維持更新、市街地内の緑地保全を図ることが必要です。

- みどりや水辺と親しむことができる自然資源の保全や活用・機能充実を図ることが必要です。

5. にぎわい・活力について

社会潮流

- 居心地が良く歩きたくなるまちなか
 - ➡ 多くの人材の出会いと交流により、地域の消費と投資、雇用を生み出すことが必要です。
- ニューノーマルへの対応
 - ➡ 人々のライフスタイルに応じた多様な働き方の選択肢を提供していくことが必要です。

本市の特徴（◎強み ●弱み）

基礎的調査

- ◎愛知県森林公園は自然レクリエーションの拠点として、市内外の多くの人に親しまれる空間となっています。
- ◎主要地方道名古屋瀬戸線、国道 363 号沿道等の主要な幹線道路沿道に商業機能が分布しています。
- 市内鉄道駅で最も利用者数が多い三郷駅周辺は商業地域に指定されているものの住宅用地として利用されている傾向にあり、商業集積が進んでいません。
- 小売吸引力は 0.85 と 1 を下回っていることから、市外に購買力が流出していることが伺えます。
- 小売業の年間商品販売額、従業者数、商店数、売り場面積とも減少傾向にあります。

市民アンケート

- ・「暮らしの質」をより高めるために必要と思われる項目のうち、鉄道駅がある小学校区では「駅周辺での商業施設の確保」の割合が高くなっています。
- 生活していて嫌だと思う事は「素敵な店が少ない・好きな店がない」「働く場所が少ない」「まちに活気がない」という項目が上位となっています。（六次総）

基礎的調査

- 本市から名古屋市に通勤する傾向が顕著であり、昼夜間人口比率は県内の中でも下から 6 番目となっており、市民の働く場が市外にある現状が伺えます。
- 製造業の製造品出荷額等、従業者数、事業所数ともに、長期的にみると減少傾向にあります。

市民アンケート

- これまでのまちづくりの評価では「雇用につながる企業の誘致」の満足度が低くなっています。
- 生活していて嫌だと思う事は「素敵な店が少ない・好きな店がない」「働く場所が少ない」「まちに活気がない」という項目が上位となっています。（六次総）

課 題

- 市内に広く分布する公園等のオープンスペースを活用し、人の交流や滞在によるまちなかのにぎわい創出が必要で
- 鉄道駅周辺において商業や飲食、医療福祉、教育、娯楽業等の生活サービス産業（第 3 次産業）の集積を高め地域活力の向上を図ることが必要で
- 主要な幹線道路沿線に立地する商業機能を維持し、地域の生活利便性を確保することが必要で
- 駅周辺や主要な幹線道路への魅力ある店舗の立地により、市内での購買を促進し、経済循環を図ることが必要で

- 働く場となる企業の誘致が必要で
- 都市活力を向上する工業集積を図ることが必要で

◆課題のまとめ

1. 住む場

- 良好な住環境の維持・充実が必要です。
- 働きながら子どもを育てやすい住環境の維持・充実が必要です。
- ライフスタイルに応じた多様な暮らし方が選択できる住環境が必要です。
- 空き家・空き地の増加抑制や利活用が必要です。
- 高齢化が進む地域では、高齢者の暮らしやすさの確保が必要です。
- 現在のコンパクトな市街地規模の維持が必要です。
- 生活サービスやコミュニティ、公共交通を持続的に確保するため、市街化区域人口密度の維持が必要です。

2. 生活利便性

- 日常生活に密接に関連する生活利便施設の維持・充実が必要です。
- 生活利便施設へのアクセスのしやすさが必要です。
- 生活道路への通過交通の流入や速度抑制が必要です。
- 生活道路の適切な維持・更新に加え、狭あい道路の整備改善が必要です。
- 老朽化が進む公園については、市民のニーズや使い方を踏まえ、適切な維持・更新が必要です。
- 身近な公園が整備されていない地域の解消が必要です。
- 下水道施設の継続的な整備と老朽化する既存施設の適切な維持・更新が必要です。
- 市民の移動を支える公共交通サービスの維持・充実が必要です。

3. 安全安心

- 南海トラフ地震をはじめとする地震発生時の被害を軽減するために、公共施設や民間建築物の耐震化や機能更新が必要です。
- 住宅密度の高い既成市街地では、大規模火災等の災害時における消防や救援のための活動空間の確保が必要です。
- 想定される矢田川からの洪水に対する防災・減災対策が必要です。
- 想定される内水氾濫のリスクを低減する排水対策が必要です。

4. 自然環境

- まとまりのある緑地を今後も保全することが必要です。
- 民有地の緑化の促進や街路樹の維持更新、市街地内の緑地保全を図ることが必要です。
- みどりや水辺と親しむことができる自然資源の保全や活用・機能充実を図ることが必要です。

5. にぎわい・活力

- 市内に広く分布する公園等のオープンスペースを活用し、人の交流や滞在によるまちなかのにぎわい創出が必要で
- 鉄道駅周辺において商業や飲食、医療福祉、教育、娯楽業等の生活サービス産業（第 3 次産業）の集積を高め地域活力の向上を図ることが必要で
- 主要な幹線道路沿線に立地する商業機能を維持し、地域の生活利便性を確保することが必要で
- 駅周辺や主要な幹線道路への魅力ある店舗の立地により、市内での購買を促進し、経済循環を図ることが必要で
- 働く場となる企業の誘致が必要で
- 都市活力を向上する工業集積を図ることが必要で